

## 「施策」総括票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		51頁
対応する 主な課題	<p>○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。</p> <p>○沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。</p>		
関係部等	文化観光スポーツ部、教育庁		

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
<b>○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信</b>				
1	沖縄芸能活用プロモーション事業	187,852	順調	○海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、世界遺産に登録されている組踊など厳選した沖縄芸能の歌舞団を海外13カ国に派遣して38回の公演を実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取組を行った。(1)
2	沖縄県高校生国際文化交流派遣事業	1,416	順調	○芸術分野で活躍する高校生を海外へ派遣し文化交流を行った。
3	沖縄県芸術文化国際交流プログラム	13,150	順調	「書道」:中国(上海市)へ13人派遣(2) 「音楽」「美術・工芸」「郷土芸能」:シンガポールへ60人派遣(3)
4	世界エイサー大会開催支援事業	39,698	順調	○平成24年10月に世界エイサー大会を開催し、海外3団体、県外2団体を含む44団体が参加し、約58,000人の観客動員があった。(4)

様式2(施策)

5	沖縄国際アジア音楽祭の開催支援	2,731	順調	○沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを平成25年3月に開催し、音楽関係者による意見交換、議論等を行うことにより、県内音楽関係者のネットワーク強化、新たな展開に向けた協働促進等を図った。また、本取組を沖縄国際アジア音楽祭と連携して実施することにより、沖縄音楽産業の効果的な振興に向けた音楽祭の開催支援に資することができた。(5)
6	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション	187,852	順調	
<b>○文化発信交流拠点の形成</b>				
7	「空手道会館(仮称)」の整備	17,294	やや遅れ	○空手道会館に係る基本計画を策定した(平成25年3月)が、収支計画や管理運営体制について、より詳細かつ具体的な検討を行ったため、計画策定に不測の日数を要し、測量・土質調査の実施及び基本設計が次年度繰越となり、やや遅れとなった。(7)
8	文化発信交流拠点の整備	13,823	順調	○沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成・登用機能を持つ文化発信交流拠点を整備するための基本構想を策定(平成25年3月)した。(8)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1		世界エイサー大会の来場者	64,900人 (23年度)	58,000人 (24年度)	100,000人	△6,900人	-
	状況説明	基準年となった平成23年度は、世界のウチナーンチュ大会との連携開催であったことから、集客の面で高い相乗効果が得られていたが、平成24年度は観客動員数に落ち込みが見られた。					

様式2(施策)

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
2		沖縄国際アジア音楽祭の来場者数	36,000人 (23年度)	27,140人 (24年)	45,000人	△8,860人	-
	状況説明	<p>沖縄国際アジア音楽祭については、県主導により平成21年度から平成23年度まで3カ年間にわたり事業を実施してきたが、平成24年度からは、民間へ事業を移管し、沖縄市を中心に実施している。</p> <p>平成24年度は沖縄国際アジア音楽祭事業を民間移管した初年度であったため、平成23年度と比較して規模を縮小して音楽祭の実施がなされた。そのため、来場者数も減少している状況である。</p>					
		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
3		文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人 (23年)	73人 (24年)	350人	63人	-
	状況説明	<p>派遣された高校生は、この貴重な国際文化交流を通して、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、海外(外国)への関心が一層高まった。</p>					
		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
4		県外・海外からの空手関係者来訪数	調査予定 (24年度)	調査予定 (25年度)	増加	-	-
	状況説明	<p>毎年多くの空手家が空手を学びに沖縄を訪れていると言われているが、その受け入れは各道場単位・個人単位での対応となっている。空手道会館(仮称)を拠点として「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信するとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図ることにより、世界中の空手愛好家の来訪を促進できると考えている。</p>					

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-

### Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

#### ○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信

- ・平成24年度はより多くの海外公演派遣を試みたため、事業の企画から会場の確保、公演準備などを短期間で実施するケースがあった。
- ・世界エイサー大会では平成25年度からの公益財団法人沖縄県文化振興会への事業引継に伴い、これまで県が拠出していた負担金がなくなることから、大会の予算確保が課題である。

#### ○文化発信交流拠点の形成

- ・「空手道会館(仮称)」の整備においては、建設場所の決定によって新たに要する作業工程を踏まえ、会館完成までの効率的なスケジュールを再構築する必要がある。
- ・「国立劇場おきなわ」を中心としたエリア一帯を文化発信拠点として整備するにあたり、土地利用等の課題があり、関係者が複数(国立劇場おきなわ、那覇港管理組合、浦添市等)に亘ることから、関係者間の連絡を密にするなど、調整を図る必要がある。

### Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

#### ○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信

- ・沖縄芸能活用プロモーション事業においては、各都市における来場者のニーズを踏まえ、人間国宝や無形文化財保持者の出演者を含めた派遣や、より大胆な発想で演出を行える演出家の登用が必要である。
- ・平成24年度は書道分野における交流研修において、中国の上海へ派遣しているが、その後、大気汚染等の環境汚染問題、鳥インフルエンザ等の諸問題が発生している。

### Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

#### ○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信

- ・海外公演においては、事業の早期実施及び選択と集中等による効果的な公演展開を行い、スケジュールに余裕を持たせる。
- ・沖縄芸能活用プロモーション事業における公演の企画等に関して、出演者や演出家が参画するための適切な仕組みについて検討を深め、導入する。
- ・世界エイサー大会では、ボランティアや参加団体との協力体制を構築するなど、大会運営コストの削減を図るとともに、企業協賛等の収入の確保にも努める必要がある。また、市町村との協働などの取組も検討するほか、県としてもエイサー普及啓発事業を活用するなど、積極的に大会を支援していく。
- ・派遣先国について我が国との外交情勢を見極め、より安全に交流を実施できる国を選定する。芸術国際交流プログラムにおいて、音楽、美術・工芸、郷土芸能分野はシンガポールでの実施を検討中であり、書道分野は当初予定していた上海から台湾への変更を予定している。

#### ○文化発信交流拠点の形成

- ・「空手道会館(仮称)」の整備においては、平成25年度については、管理・運営・展示計画の策定と並行して、平成24年度から繰越となった基本設計や測量・土質調査の実施に加え、用地買収や文化財調査など新たに発生した作業工程に係る経費や実施設計費用を補正予算で計上するなど、効率的なスケジュールを構築し、会館の早期完成を目指して取り組んでいく。
- ・文化発信交流拠点の整備基本計画を策定する上での土地利用等の課題解決のため、基本計画策定と並行して関係者との調整を進め、連携して取り組んでいく。